

アフリカラリー選手権は国際自動車連盟の公認で28年の歴史がある。今年は2月から9月まで、タンザニア、ウガンダ、ケニア、ジンバブエ、ザンビアで計5戦。現地を熟知するライバルを相手に奮闘、三菱ランサーを駆って、1位3回、2位1回の好成績を収め、総合王者となった。

資金が潤沢だったわけではない。レースの合間には、ナイロビの知人の家に泊まり、仲間とトラックを運搬して移動した。「国が変われば言葉も変わる。税関でトラブルに遭ったり、インフレで物価が倍になったり。あり得ないことばかり」。

日本人初のアフリカラリー選手権王者

三好 秀昌さん(48)

東京都出身。自動車ジャーナリスト、カメラマン。日本カー・オブ・ザ・イヤ―選考委員。



曲がり角を抜けたら路上に象がいたことも。最初はきつかったが、やがて「面白くなった。冒険ですよ」。

最終戦ゴールの翌朝、レ

95、96年にケニアのサファリラリーで優勝(クラス別に)。昨年、同じラリーに参加したのがきっかけで、今年のアフリカ選手権に参戦した。ナビゲーターを務めた市野 諒(52)は「環境適応力がすごい。マサイ族の家に泊まり、体中をノミに刺されても平気なんだか

ら」。路面や天候が刻々と変わるラリーにびったりの才能だ。

ストランで黒人ウエートレスに「グッドモーニング、チャンピオン」と声をかけられた。「すごくうれしかった。見知らぬ人に祝福されて、チャンピオンになれたんだと思った」。感激がよみがえり、目が潤んだ。

写真・岩下幸一郎
文・神保忠弘

ひと